

(財)兵庫県国際交流協会委託事業医療通訳研修

## 「病院から見た医療通訳」

日時:2007年11月10日(土) 14:00~17:00

会場:ひょうご国際プラザ 3階 交流ホールC

企画・実施:特定非営利活動法人 多言語センターFACIL

### ===== プログラム =====

- 主催者あいさつ (14:00~14:05)  
矢野 実 (財)兵庫県国際交流協会 企画管理部長
- 医療通訳現状報告 (14:05~14:20)  
吉富 志津代 多言語センターFACIL 理事長  
安西 佐有理 多言語センターFACIL コーディネーター
- 「病院にとっての医療通訳」(14:20~15:10)  
松野 勝民 MIC かながわ副理事長
- 「医療通訳者の心得」(15:10~15:30)  
北村 広美 多文化共生センターひょうご代表
- 休憩(15:30~15:40)
- FACIL 医療通訳者からの報告(15:40~16:00)  
発表者: ハ・ティ・タン・ガ 内藤 普子 戴 梅蘭
- パネルディスカッション(16:00~16:40)  
ファシリテータ: 北村 広美  
パネリスト: 松野 勝民 吉富志津代 ハ・ティ・タン・ガ  
内藤 普子 戴 梅蘭
- 質疑応答 (16:40~17:00)
- 閉会あいさつ  
司会進行:大橋 和美(多言語センターFACIL スタッフ)

## 医療通訳同行システム実施件数集計

(2006年4月1日～2007年9月30日)

1. 通訳同行総件数 **160** (依頼件数 164 キャンセル 5 )  
 通訳者が病院に同行した回数を集計したもの  
 患者複数で同一病院内の受診や、1人の患者が複数科を受診の場合も1件とした

### 2. 言語別

言語	件数
スペイン	66
中(北京)	49
ベトナム	37
ポルトガル	2
スペイン/ポルトガル	2
英	2
ロシア	1
タガログ	1
計	160

### 3. 診療科別

1件で複数科を受診しているケースがあるので総件数とは一致しない

受診科	件数	備考
内科	35	
うち、免疫血液内科	8	継続依頼あり
腎臓内科	1	
消化器科	1	
心療内科	1	
婦人科/産婦人科	35	継続依頼あり
小児科	3	
外科	36	継続依頼あり
うち、呼吸器外科	1	
心臓血管外科	1	
脳神経外科	6	
整形外科	30	継続依頼あり
麻酔科	17	継続依頼あり
精神科	4	
皮膚科	3	
耳鼻咽喉科	3	
歯科	1	
その他	1	医事課での医療保健制度相談
不明	4	
計	178	

## 医療通訳者研修

### 「病院にとっての医療通訳」

MICかながわ副理事長  
済生会神奈川県病院SW  
松野 勝民

## 外国人の医療問題

- 医療費問題
- 言葉の問題
- 帰国の問題<sup>22</sup>
- 文化風習の違い
- 教育の問題
- 在留資格の問題
- 結婚・子どもの問題 等々

## 医療費問題

### 1. 健康保険未加入

- 1) 加入しない・加入できない
- 2) 自費診療⇒高額な医療費
- 3) 支払いの問題⇒未収金の発生



診療拒否

### 2. 国としての抜本的対策はない

- 1) 各自治体で工夫をしている
  - 行旅病人及び行旅死亡人取扱法
  - 外国籍県民救急患者補填事業

## 神奈川県における医療通訳システム

1. 外国籍県民かながわ会議
- ↓
2. 神奈川県医療通訳制度検討委員会
- ↓
3. 神奈川県医療通訳派遣システム構築事業
- ↓
4. 神奈川県における「新システム」

## 神奈川県通訳バンク運営要領

### 第4条（派遣の対象）

「県バンクは、国、県、市町村及び別表に掲げる公的団体（以下「行政機関等」という。）から外国籍県民のための通訳・・・ただし、司法関係及び医療行為に関する通訳は除く」

## 外国籍県民かながわ会議最終報告

（第1期） 2000（平成12）年10月

### <医療問題について>

提言18 医療通訳に対応できる人材を育成するとともに、病院と医療通訳をコーディネートする仕組みをつくり、積極的に広報していく。

提言19 病院内の表示を外国語表示、ローマ字またはルビ付きにするよう働きかける。

## 神奈川県医療通訳制度検討委員会

◎2001年度発足

◎委員構成

県民部国際課・衛生部医療整備課・衛生総務室、県病院協会、県医師会・県歯科医師会・県薬剤師会、かながわボランティアセンター、医療関係者（医師・SW）、県・各市国際交流協会、かながわNGO会議、外国籍県民かながわ会議（第1期）

## 神奈川県医療通訳派遣モデル事業

◎言語 5言語

⇒外国人登録者数

⇒スペイン語・ポルトガル語・中国語・ロシア語  
タガログ語

◎医療機関 6病院

⇒救急患者補填事業の請求状況

⇒地域性

◎3ヶ月間のモデル事業

⇒結果的には年度末まで延長

◎平均派遣数 33.6件/月

## 神奈川県 医療通訳派遣システム構築事業

◎派遣医療機関 17医療機関

○保健二次医療圏に1ヶ所

○特殊な医療機関

◎言語 10言語

スペイン語・ポルトガル語・中国語・ロシア語

タガログ語・タイ語・英語・ベトナム語

ラオス語・カンボジア語

◎通訳スタッフ 184名

## 神奈川県

### 医療通訳派遣システム構築事業要点

1. コーディネーターの設置
  - ◎医療機関と通訳者のコーディネート
  - ◎人件費・場所・電話代等の確保
2. 6者間協定（県・MICかながわ・県病院協会・県医師会  
県歯科医師会・県薬剤師会）
3. 協力病院との確認書
  - ◎活動中は「準スタッフ」の扱い
  - ◎不慮の事故（誤訳等）について賠償責任保険適用
  - ◎通訳者の保護
4. 「かながわボランティア活動推進基金21」からの助成金
  - ⇒最高1000万円/年
  - ⇒5年間限定（2007年度まで）

## 通訳依頼方法

- ①医療機関において通訳の必要性が発生
- ②医療機関（SW）からCo.へ電話依頼
- ③登録通訳者へ問い合わせ
- ④通訳者が決まり次第SWへ返答
- ⑤通訳派遣実施

## 神奈川県医療通訳派遣システム

- ◎今後の課題
- 活動資金の確保
    - ・通訳派遣費用（流動資金）
    - ・人件費、事務費（固定資金）等々
  - 通訳者の確保
    - ・新規通訳登録者の確保（数の確保）
    - ・現任通訳者の研修（質の確保）
  - 緊急時・休日・夜間の派遣
  - 医療機関の限定をなくす
  - 外国籍住民から直接依頼を受ける

### 今後の通訳派遣システム

1. 通訳派遣システムの土台となる部分(コーディネーター費用・電話代・研修等の固定資金)の経費は年度毎の変化が乏しく、予算化しやすいことを考え行政が支えていく。
2. 通訳スタッフに支払う費用は、通訳件数により大きな変化が考えられるので予算化は難しい。この流動資金については、当事者負担として医療機関・患者等が負担する。



2007(平成19)年度より1件につき1,000円を医療機関負担とした

13

### 医療機関の協力を得るために

1. 公的機関(=行政)の介入
  - 1) 信頼感・安心感がある
  - 2) 医療機関としても動かざるを得ない
2. SWとの連携
  - 1) 医療機関の窓口
  - 2) ケースとして捉える
  - 3) 院内のコーディネーター
3. 医療機関側の姿勢・理解
  - 1) 支出が生じるか否か
  - 2) 医療機関としての責任をどう考えるか
  - 3) 協力体制がどうとれるか

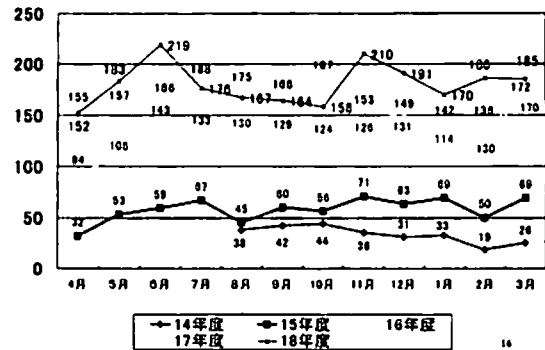
14

### 通訳派遣システムの要点

1. 通訳者の数と質の確保
  - 1) 養成・研修・登録
    - ⇒ 安心して任せられる
2. スムーズな依頼・派遣
  - 1) できるだけ簡略にかつ確実に
    - ⇒ 手間がかかるほど嫌がられる
3. 派遣元と派遣先とのコミュニケーション
  - 1) フィードバック
    - ⇒ よりよい派遣制度の構築のために

15

### 派遣件数



16

## 医療通訳者のこころえ

2007年11月10日

北村 広美

(多文化共生センターひょうご)

1

## 医療通訳:外国人医療のキーパーソン?

- 日本の医療者教育  
多様な文化背景に対する配慮を学ぶ機会はほとんどない  
カリキュラムが過密であるため、しばらくは根本的改善はむずかしいと思われる  
医療者のなかにも誤解や偏見をもっている人は意外に多い
- 外国人患者  
潜在の長期化や背景の多様化に伴い、医療が必要とされる場面は増えている  
コミュニティの増加によって、むしろ日本語能力は後退している側面もある

2

## ○ (医療)通訳人

通訳の一分野としてでなく、人道的支援の一環としての経緯  
NGOやボランティア団体などが支えてきた  
必要とされる能力に見合った保障(報酬含む)が確保されていない

## ○ 三者のニーズ

それぞれがらう  
通訳人が板ばさみになることが多い

3

## 医療通訳をめぐる二つの議論

- 「逐語訳」型  
通訳の原則である「足さない、引かない、変えない」を厳守する  
通訳人によるぶれが少ない  
お互いの理解不足を補うことができない
- 「異文化理解促進」型  
文化背景のちがいや、制度的な問題の理解不足を補う  
相互理解の促進につながる(ただし、逆効果の場合もある)  
通訳人によって活動内容に差が生じる

4

## 医療通訳の目的

- 意思疎通  
異なる言語でのコミュニケーションを成立させる  
どの分野の通訳においても必要
- 治療の助け  
診療文化のちがいをふまえて、「その人」に適切な診療を行なう  
不安の緩和

5

## 医療機関で活動するということ

- 「専門家」と「外国人」が対象  
両者とも日本での「一般的」な尺度が適用しないことが多い  
力関係に大きな差がある  
特に外国人側は向らかの疾患をもっている。日頃のコミュニケーション能力が発揮できない
- 現場の特殊性  
予期せぬ事態(急変など)が起こりうる  
感染など、健康面での注意がことのほか必要とされる  
大病院では業務が細分化されているため、かかわる当事者が多い(しかも理解度などに差がある)

6

## 最低限守らなければならないこと

- 感染予防
  - うつさない、うつされない
  - 理解不足や偏見による二次被害を防ぐ
- 活動倫理
  - 守秘義務: 医療として、通訳として
  - 医療機関にふさわしい振る舞い
  - 専門性に走らない
  - 所属団体の規定を遵守する

7

## おまけ: Useful Tips

- 出版物
  - 15ヶ国語診療対訳表(医学書院)
  - 外国人と日本人医師の臨床会話集(全10巻)(三才社)
  - 外国人患者が薬局に来て大丈夫ー11ヶ国語対応「薬局サービスシート」(薬業時報社)
  - ナースのための中国語会話1000(桐書房)
- ウェブサイト
  - 医療用語の解説(全国保険医団体連合会)
  - <http://modarven.coc-net.or.jp/kenku/ryuuyougou/ryuuyougou.htm#44>
  - メルクマニュアル医学百科家蔵版(葎有製薬)
  - <http://mmh.banyu.co.jp/mmhe2j/index.html>

出版物の情報は多文化共生センターひょうごのホームページからも検索できます！

8

**兵庫県医療通訳システム構築モデル事業**（協力：兵庫県、(財)兵庫県国際交流協会、神戸市）  
問い合わせ・申し込み連絡先：

《多文化プロキューブグループ》  
特定非営利活動法人 **多言語センターFACIL** [ファシル]  
〒653-0052 神戸市長田区海運町3-3-8 たかとりコミュニティセンター内  
TEL: 078-736-3040  
FAX: 078-731-6927  
E-mail: [facil@tcc117.org](mailto:facil@tcc117.org)  
URL: <http://www.tcc117.org/facil-kids/>

\* 多言語センターFACILは、1999年6月から、地域社会で必要とされる多言語通訳・翻訳、および企画の事業を行っているNPOです。